

# 環境対応生産

生産において「トップレベルの環境対応」を実現するため、「タイヤ生産環境部会」、「MB生産環境部会」が中心となり、廃棄物の削減、地球温暖化の防止などについて、多様な取り組みを展開しています。

## 廃棄物の削減と再資源化を徹底



常務執行役員  
タイヤ生産本部長  
高山章久

タイヤ部門は、「地球環境に優しく、働きがいがあり、誇れる職場を全員で構築し続ける」を基本目標として活動に取り組んでいます。重点課題は「廃棄物発生量の削減」と「再資源化率の向上」です。廃棄物発生量の削減は、「基本に立ち返った5Sによる現場改善活動の展開」、「理屈・理論から迫った不良メカニズムの解明・改善実施」の2本柱で対応し、製造工程で発生する製品屑の半減を目指しています。また廃棄物の再資源化に関しては、2010年度に再資源化率100%を達成するため、廃棄物の徹底分別、新リサイクル技術の開発に取り組んでいます。さらに、工場周辺の環境に影響する騒音、臭気、粉じんについても改善を進めていきます。

## 廃棄物が発生しない仕組みを目指す



執行役員  
MB生産担当兼ホース配管事業部長代理兼  
平塚東工場長  
伊澤俊夫

MB部門は、ホース配管、工業資材、航空部品、ハマタイトと、商品特性が全く異なる事業部の集合体です。こうした特性を踏まえながら、現在、生産革新活動「MB-PI」活動の一環として、すべての事業部で「製造屑を1%以下に削減」に取り組んでいます。また、産業廃棄物については、全社目標は2008～2010年度に12%削減(1996年度比)ですが、MB生産環境部会の挑戦目標として20%削減を掲げています。目標達成のため、仕損屑や端材、段取替え時に発生する屑など製法に起因するすべての産業廃棄物は、まったく発生させないか、発生しても極少化できる製法に変更するべく活動を進めています。2006年度も「MB-PI」活動を軸に、2S、自主保全、作業標準化活動による品質不良対策、産業廃棄物削減活動の意識改革を推進します。

## 環境を考慮したタイヤ工場

横浜ゴムグループのタイヤ生産拠点では、「廃棄物発生量の削減」と「再資源化率の向上」を重点課題として、タイヤ生産の効率化に取り組んでいます(写真は中国の杭州横浜輪胎)。

